

最近大発生している

マイマイガの生態・被害・防除



● 卵から^{かえ}孵った直後の幼虫 (5月上中旬)



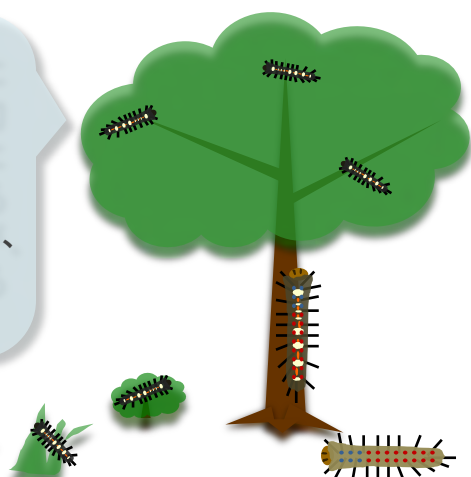
孵った直後の幼虫には、毒毛と考えられる途中で丸く膨らんだ毛()があります。この毛は脱皮すると無くなります。

- サクラの花が咲く5月上中旬、街灯・壁・木の幹などに産まれた卵塊から幼虫が孵ります。
- 卵から孵った幼虫は天気の良い暖かな日に、高い所にのぼり糸を吐いてぶら下がり風に乗って飛びます。
- 人に付いたり、家の中に入ってきたり、物品に混入することがあります。
- 皮膚に直接触れると、かゆみや発疹が出ます。
- 好天日は、洗濯物を外に干さない、窓を開けたままにしない、または網戸をするなどの注意が必要です。
- 幼虫が付いたときは、ガムテープに貼り付けるなどして、つぶさないよう取り除きます。衣類などに幼虫が付いてつぶれたときは、素手で触らないよう取り除いてから洗濯してください。
- 薬剤で駆除する場合、植物上にいるときは農薬、壁などにいるときはガ用の家庭用に市販されている殺虫剤を使用します。スプレー剤では幼虫が吹き飛ばされ、体に付着することがあるので注意してください。

● 幼虫 (5月下旬～7月中旬)

小さなときは葉にいます。5月下旬～7月頃の幼虫に毒毛と考えられる毛はありませんが、触ると毛が刺さることがあります。

幼虫は樹木だけでなく、草も食べます。



6月下旬～7月中旬、成長した幼虫は日中、幹や地面に降りてきます。幹に布を巻いておくと、その隙間に集まり、ここでさなぎ蛹になります。

- シラカンバ・カラマツなど落葉樹を好んで食害します。落葉樹はマイマイガに葉を食べつくされても、2～3週間で葉を回復し、枯れることはめったにありません。ただし、その年の生長が低下することがあります。
- 落葉樹林で大発生すると近くのトドマツなど常緑針葉樹を食害することがあります。常緑針葉樹は、多くの葉を失うと枯れることがあります。また、近くの農作物を激しく食害することがあります。
- 幼虫を捕まえる場合は、毛が刺さることがあるため、ビニール手袋をするか火箸などを使用します。水と洗剤の入ったバケツに捕まえた幼虫を入れ溺死させます。死亡したら土に埋めます。蛹は集めてそのまま土に埋めます。
- 農薬で駆除する場合は、幼虫が小さな5月下旬から6月中旬が散布の適期です。木が大きいときは、幼虫が成長し幹や地面に降りてきてから散布するのが良いでしょう。
- 農薬としては、様々な樹木でマイマイガまたはケムシ類に適用できるものが便利でしょう。なお、壁などに付いている幼虫や成虫の駆除には家庭用の殺虫剤を使用してください。
- 農薬や殺虫剤は説明書に従って使用し、通行人や近くの住民に十分配慮するとともに、周囲に飛散しないよう注意してください。

● 成虫(7月下旬～8月下旬)・卵塊(8月～翌4月)



あまり硬くない先
が平らなもので
卵塊を取ります。
(写真はペットボトル
を利用した岩手県式
採取法)

- 大発生すると雌成虫は照明に大量飛来し、近くの電柱・壁などに産卵します。飛来は日没後の数時間に集中します。
- 飛来を減らすには消灯や誘虫性の低い照明への交換が有効です。消灯する場合は防犯面を十分検討してください。
- 成虫・卵塊を取り除くときは、^{りんもう}鱗毛が舞い上がるためマスク・ゴーグル・手袋を着用してください。
- 集めた成虫や卵塊は土に埋める、またはポリ袋に入れゴミに出します。
- 壁などについている成虫・幼虫を薬剤で駆除する場合は、ガ用の家庭用の殺虫剤を使用します。虫に直接散布し駆除するもの、窓ガラスなどに散布し虫を忌避させるもの、両方の効能を兼ね備えたものがあります。
- 殺虫剤は説明書に従って使用し、通行人や近くの住民に十分配慮するとともに、周囲に飛散しないよう注意してください。

● マイマイガ被害に関する相談窓口

- ＜森林や樹木の被害＞ 各総合振興局・振興局 林務課・森林室
- ＜市街地での被害＞ 各総合振興局・振興局 保健福祉室・地域保健室

作成・発行 (地独)北海道立総合研究機構林業試験場・北海道水産林務部 2010年4月

パンフレットに関する問い合わせ先 (地独)北海道立総合研究機構林業試験場
〒079-0198 北海道美幌市光珠内町東山 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166
<http://www.fri.hro.or.jp/> (当サイトからパンフレットpdf版がダウンロードできます。)

協力 東京薬科大学生命科学部・国立大学法人岩手大学農学部・北海道立衛生研究所

(当パンフレットの記載内容の一部は農林水産政策を推進する実用技術開発事業を活用した研究によるものです。)